認知症事例検討会　　開催報告

日時：令和５年 ８月 31 日（木）17：30 ～19：00

会場：北見赤十字病院 北館３階 大会議室

内容：多職種事例検討会

事例テーマ：『若年性認知症の方への支援』

上記内容にて事例検討会を開催致しました。終業後にも関わらず、北見市や近郊の町の医療・介護・福祉に従事する関係者 28 名の参加がありました。

事例提供者の当センター精神保健福祉士で若年性認知症支援コーディネーターの伊藤智美と共同事例提供者である高齢者相談支援センター東部・端野の松田睦子氏より事例の概要を説明し、６グループに分かれてディスカッションを実施しました。

ディスカッションでは、キーパーソンである超高齢の親が近い将来いなくなった場合本人をどのように支えていくか、必要な支援について検討しました。それぞれの職種の強みを活かし、各グループとも具体的な支援内容を活発にディスカッションしていました。

その後各グループから検討内容を発表してもらい、全体で共有しました。当事者や家族の意向を前提として、活用できそうなフォーマル・インフォーマルな社会資源について多くの意見が出されました。さらに IT を使った便利グッズのアイディア等興味深い意見も出されました。

終了後のアンケートでは、「障がいと介護保険の狭間にある若年性認知症の支援の難しさがあり、いろいろ参考になる意見が聞けて良かった」、「就労支援についての情報は有用であった」など多くの意見を頂きました。テーマが若年性認知症ということで専門職も関わる機会が少ないため、支援から活用できる制度までさまざまな学びに繋がりました。

コロナ禍を経て４年ぶりの事例検討会でしたが、直接顔を合わせ、多職種の意見を聞ける機会を喜ぶ声を多く頂きました。

今年度の残りの研修会は、講義形式のハイブリッド研修となりますが、来年度もまた事例検討会を企画したいと思いますので、ぜひ事例の提供にもご協力いただけますよう宜しくお願い致します。

（認知症疾患医療センター事務局 福島記）